

専念寺通信

十一月号 (NO. 135)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>



秋が深まって参りました。11月に入って、夜には虫の音がとても良く聞こえます。気温はまだそれほど下がって来ませんが、専念寺の樗やいちようは少しずつ紅葉しはじめました。みなさま、おかわりなくお過ごしですか？

☆災害と風評被害

東日本大震災のあと、おもに原子力発電所の事故による、さまざまな問題が報道でとりあげられるようになりました。NHKの夕方のニュースでは毎晩、東京都内の「放射性物質」の値が報道されます。このようなことは、終戦後、久しくなかったことではないでしょうか。私たちの日常に、きょうは、何々シーベルト、などという値が知らされるということは。私たちの国は、やはり前代見聞のできごとに合っていることを、実感せざるを得ません。放射性物質のやっかいさは、それが、大気中にあること、土壌の中にしみ込んでいくこと、そして海に流れでていくこと、ではないでしょうか。さらに「半減期」とよばれる時期が短いものと、無害になるまで100年かかるものまであること等、問題はやはり深刻で、そして解決に時間のかかることであるといえます。「風評被害」という言葉も最近、よく耳にします。私たちにできることは、いったい何が「風評」(うわさ)で、何が真実かを自分なりに確認することではないかと思えます。真実を知るには、自分で現地に行き、現地の人たちと会話し、更に、できれば原子力エネルギーについて、少しでも多くの正確な情報を得ることでしょう。ただ、毎日、仕事をして、とても忙しい、或いは、そこまで行く体力がない、という場合だってあります。現地に行った人に直接会えれば、その機会をのがさず、色々たずねてみま

しょう。被災地とひとことで言っても、「復興」の手が比較的良い地と、まったくといってよいほど「復興」から置き去りにされている場所があるようです。これから、厳しい冬が東北地方にやってきます。最近、大型バスに暖房用品500点を積んで、泊り込みでそれを被災地の方たちに渡しに行った人に会いました。仮設住宅は簡単なつくりで、雪や雨や寒さにはとても弱いこと、そして、一番燃料の安い石油ストーブは、寄付による、いわゆる中古品なので、万一の事故を考えて運ぶ物資の中には入っていなかったこと、などを聞きました。こたつやホットカーペットが寄贈品の主流のようでした。しかし電気代は被災した方たちが払うのです。ほかにも多くのことを聞きました。皆さまも、もし、「現地に行った」という人がいたらできるかぎりたくさん情報を聞きましょう。また、ご親戚、知人が被災地にいらっしゃるなら、どうか、現状を聞いて、専念寺においでの際に私共にお教え下さい。うわさ、にまどわされたいための小さな努力をし、それを生きている限り続けましょう。私たちの国は、経済的にも、これからあまり良い状態に向くとは思えません。世界的に経済は不安定になっており、タイの洪水など、自然現象の影響も、すべて私たちの国の経済に大きな影を落とすようです。このような時に、国家というものは、とかくむやみに「戦闘的」になりがちです。かつての大戦を思い起こしてみても、そこには必ず経済の危機がまずありました。米国のアフガニスタン攻撃も米国の経済危機の只中に行なわれました。私たちは、まず、放射能について、少しでも自分の知識を深め、次に、現地のことを正確に知る機会をつかみ、そして何より何がどうあっても「戦争」はしないのだ、戦争の「準備」もしないのだ、ということを決して忘れずにいましょう。「殺すなかれ、殺させるなかれ」、私たちはこれから50年でも100年でも静かな力で助けあいましょう。写真はいちよう、蜘蛛の巣を熱心に作っている頑張り屋の蜘蛛、墓地のつわぶきです。平成23年11月1日 大黒

